

視察報告書

平成31年2月1日

府中市議会議長 様

会 派 名 市民クラブ

日 時	平成31年1月28日(月曜日)
視 察 先	石川県小松市
視察項目	日本遺産認定の取り組みについて
参 加 者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察内容	<p>1. 日本遺産認定の取り組みについて 小松市には2つの日本遺産が所在しており、府中市の日本遺産認定に向けての参考とするため赴いた。</p> <p>①『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～</p> <p>小松市単独で認定に向けて取り組み、2016年度に認定された。市内で産出する石材を弥生時代の勾玉、近世城郭の石垣など各時代を貫く共通項として、小松独自の文化遺産と捉えている。認定後は、食育など様々な分野とコラボして市内外に情報発信を続けている。</p> <p>②「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」</p> <p>江戸時代、北海道・東北・北陸と西日本を結んだ西廻り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれた。北前船寄港地に関しては、2017年度に函館市など11市町がすでに認定されていたが、2018年度には尾道市や小松市(安宅湊)を含む27市町が追加された。追加認定のとりくみの経過を伺ったが、特に何もないという回答で、認定後のとりくみもあまりないようだった。</p> <p>その他、翁座の今後の活用の参考に、粟津温泉に所在する国登録文化財「粟津演舞場」(昭和6年建設)の取り組みについても説明を希望したが、民間団体による取り組みが主で行政としては関知しないということでお話を伺えなかった。</p>
所 感	<p>珠玉～石の文化については、観光の柱の一つとして積極的に活用されている一方で、多くの自治体と一緒に追加認定された北前船寄港地は、ホームページでの紹介も少なく、取り扱いに温度差を感じた。行き詰っている石州街道の日本遺産認定の打開策として、府中市分は追加認定にするという奇策も考えていたが、ハードルは高いと感じた。</p>